

橋掛名主

爰ニ糟谷三郎宗秋、六波羅殿ノ御前ニ參テ申ケルハ、○中略主上○光上皇○後伏見花園ヲ奉取テ、關東ヘ御下候テ後重テ大勢ヲ以テ京都ヲ被責候ヘカシ、佐々木判官時信、勢多ノ橋ヲ警固シテ候ヲ被召具バ、御勢モ不足候マシ、時信御伴仕ル程ナラバ、近江國ニ於テハ手差者ハ候マシ、○下略

〔糺河原勸進猿樂日記〕慈照院殿○足利御時寛正五年甲申四月○中略

一河原橋御警固所司代 多賀豐後守高忠

〔初見分申渡〕

三橋懸り

名。主。

橋番人

大川橋助成地

請負人

其方共銘々持場橋之破損、又は出水等有之節は、早速相届防方之儀は、兼而申付置通相心得、出火出水とも、橋附定抱人足、其外最寄船持船乗車力共等、駈付次第爲相防、諸事心付、川筋御成之節は、橋上下廣小路共掃除致し、破損等別而心付候様可致、安次郎儀は出火之節、高札持退等之儀、無油斷心付候様可致、

但鯨船鞘番所、近邊出火之節は、駈付御用書物持退方之儀申付置候處、今般川邊古問屋共、先  
前々へ引受被仰付候に付、以來駈付相心得候に不及候、

安政四巳年正月十五日

〔大川橋西橋番屋修復一件書留〕

新大橋御橋番人并添番人起立、御手當向等御尋ニ付左ニ申上候、

一右御橋延享元子年七月中、町橋ニ被下置候節、善四郎父宗兵衛儀、御橋受負入ニ相成渡錢取

橋番人  
添番人  
下番人  
書役